

教職課程履修学生の「教師像」に関する研究

和田美知子・佐藤嘉晃・藤田圭一

I. 研究の目的

本研究は、7日間の「介護等体験」ならびに2週間～4週間の「教育実習」を終了した大学4年生と、教職課程の勉強を始めたばかりの2年生を対象に、『教師』という職業またはその人となりのイメージについて、その意識に相違があるのかを明らかにすることが目的である。

II. 研究の方法

1. 調査対象者

本研究の調査対象者は、埼玉県内の大学で教職課程を履修している学生255名である。調査対象者の4年生105名（男子69名、女子36名）のうち、「教育実習」を終了している者は103名、「介護等体験」を終了している者は82名である。また、2年生は150名（男子114名、女子36名）である。なお、以下の分析では4年生をA群、2年生をB群とする。

2. 調査材料

本研究で用いた調査内容は、以下のとおりである。

『教師』について、あなたはどのように考えていますか。次の項目について、回答欄の当てはまる数字に○印をつけてください。」という指示に続き25項目（表1参照）を提示し、それぞれの項目について、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全然そう思わない」の5件法で回答を求めた。

3. 手続き

調査は、2001年（平成13年）6月下旬～7月上旬にかけて集団で実施した。

III. 結果と考察

1. A群とB群の量的分析について

ここでは教師のイメージについて用意した25項目の回答結果を検討する。5件法のうち、「非常にそう思う」に5点、「そう思う」に4点、「どちらともいえない」に3点、「そう思

わない」に2点、「全然そう思わない」に1点をそれぞれ与えて点数化し、集計した。

まず、A・B両群を混合した平均値（標準偏差）と、両群それぞれの平均値およびそのF-t検定の結果、ならびに回答比率の χ^2 検定の結果を表1にまとめた。なお、項目の順序は、表2と見比べやすくするためにその因子パターンに準じている。

平均欄では、平均値が4.0を超える肯定率の高い項目を太字で示した。これを見ると、「2. 教師は大変な職業である」「9. 教師は忙しい職業である」「11. 教師は苦勞が多い職業である」などのように、教師をひとつの職業としてとらえた場合に、そのイメージがどちらかというと厳しい側面を指摘する項目に肯定率が高い。

また、表中のA・B両群の平均欄では、両群を比較してA群の方がB群よりも肯定率（平均値）の低い6項目に網をかけて示している。平均値のF-t検定で14項目、回答比率の χ^2 検定で11項目に有意差が認められた。

2. 因子分析の結果について

主因子法・バリマックス回転による因子分析を行い、3因子を抽出した。表2はソート後の因子パターンをまとめたものである。

因子Ⅰは、「12. 教師は生徒から尊敬されている」「3. 教師は生徒が好きである」「5. 教師は生徒のモデルになっている」など、主に教師と生徒との関係が親密であることを表す項目で構成されている。表1を確認すると、そのほとんどの項目について、平均にも比率にも2群間に有意差があり、しかもすべてA群の方がB群よりも肯定的である。B群の学生は教壇に立っていないため生徒の側から教師を見ているにすぎないが、A群の学生は数週間とはいえ教師の側に立って両者の関係を観察する機会を持っている。その経験が意識に反映されたと思われる。因子Ⅰは、生徒・保護者の側から見た教師のあるべき姿を描いていると考えられるので、『教師のあるべき姿』因子と解釈した。

なお、各因子についてA・B両群それぞれの因子得点の平均値をF-t検定したところ、因子ⅠではA群の平均値が0.41、B群の平均値が-0.29となり、危険率1%未満で有意差が認められた。この結果からも、A群の学生の方がB群の学生よりも『教師のあるべき姿』を強く意識していることがわかる。

因子Ⅱは、「23. 教師にはボランティア活動の経験が必要である」「6. 教師には老人介護や障害者支援などの経験が必要である」など、学外における経験をつむことで教師が自らの人間性を広げ、それが教育にもよい影響を与えられるような項目で構成されている。因子Ⅱは、教師の経験や知識の広さを要求する『教師の資質向上』因子と解釈した。

表1 「教師」についての平均、F-t検定、回答比率のχ2検定

項目	平均	SD	A群 平均	B群 平均	平均 F-t検	比率 χ2検
12. 教師は生徒から尊敬されている	3.13	0.907	3.4	3.0	>>	>>
3. 教師は生徒が好きである	3.66	1.030	4.1	3.4	>>	>>
5. 教師は生徒のモデルになっている	3.01	1.067	3.4	2.7	>>	>>
25. 教師は生徒の悩みを聞いている	3.56	0.953	3.8	3.4	>>	>>
10. 教師は生徒の様子をいろいろ知っている	3.66	1.070	4.1	3.4	>>	>>
22. 教師は保護者から信頼されている	3.36	0.840	3.4	3.3	>>	>>
16. 教師には明朗な性格の人が多い	3.12	0.903	3.4	2.9	>>	>>
7. 教師は生徒中心に行動している	3.24	1.036	3.4	3.1	>	>
1. 教師は高度な専門的知識を持っている	3.78	1.042	4.0	3.6	>>	>
21. 教師は重要な職業である	4.35	0.738	4.5	4.3	>	>
20. 教師は生徒の日常生活にもかかわっている	3.67	0.919	4.0	3.4	>>	>>
15. 教師は生徒を学校の外でも指導している	3.25	0.975	3.4	3.1	>	>>
23. 教師にはボランティア活動の経験が必要である	3.55	1.041	3.5	3.6	>>	>>
6. 教師には老人介護や障害者支援などの経験が必要である	3.55	1.138	3.6	3.5	>>	>>
17. 教師には子育ての経験が必要である	2.80	1.049	3.0	2.7	>	>
19. 教師には幅広い知識が必要である	4.30	0.698	4.5	4.2	>>	>>
8. 教師には適性が必要である	4.23	0.830	4.3	4.2	>>	>>
2. 教師は大変な職業である	4.54	0.735	4.6	4.5	>>	>>
9. 教師は忙しい職業である	4.39	0.672	4.5	4.3	>>	>>
11. 教師は苦勞が多い職業である	4.38	0.754	4.3	4.4	>>	>>
14. 教師の仕事には自由がある	2.71	0.909	2.7	2.7	>>	>>
24. 教師は経済的に恵まれている	2.68	0.877	2.7	2.7	>>	>>
4. 教師は安定している職業である	3.55	1.060	3.5	3.6	>>	>>
13. 教師も人間だから、間違っただ行動をすることも仕方ない	3.71	0.998	3.6	3.8	>>	>>
18. 教師は努力次第で誰でもなれる	3.38	1.133	3.1	3.6	<<	<

>>:p<0.01, >:p<0.05 (A群の方が肯定的)
<<:p<0.01, <:p<0.05 (B群の方が肯定的)

因子Ⅲは、「2. 教師は大変な職業である」「9. 教師は忙しい職業である」「11. 教師は苦勞が多い職業である」「14. 教師の仕事には自由がある(一)」のように、教師を職業としてとらえたときの厳しさを表す項目で構成されている。従って、因子Ⅲを『教職の現実性』因子と解釈した。

今回の調査では共通性の非常に低い項目が含まれているため、今後の項目の検討が必要かと思われる。

IV. 要約

(1) 今回の調査結果から、教職課程履修の大学生がとらえた「教師」に対するイメージは3因子で説明することができる。それは、生徒・保護者の側から見た教師のあるべき姿を反映している『教師のあるべき姿』因子、教師の経験や知識の広さを求める『教師の資質向上』因子、教師を職業としてとらえたときの厳しさを表す『教職の現実性』因子である。

(2) 『教師のあるべき姿』因子を構成している項目は、そのほとんどについて、4年生と

表2 「教師」についての因子パターン

項 目	因子Ⅰ	因子Ⅱ	因子Ⅲ	共通性
12. 教師は生徒から尊敬されている	0.693			0.484
3. 教師は生徒が好きである	0.644			0.441
5. 教師は生徒のモデルになっている	0.631			0.430
25. 教師は生徒の悩みを聞いている	0.627			0.398
10. 教師は生徒の様子をいろいろ知っている	0.602			0.369
22. 教師は保護者から信頼されている	0.530			0.299
16. 教師には明朗な性格の人が多い	0.481			0.249
7. 教師は生徒中心に行動している	0.470			0.255
1. 教師は高度な専門的知識を持っている	0.386			0.201
21. 教師は重要な職業である	0.385		0.329	0.280
20. 教師は生徒の日常生活にもかかわっている	0.383			0.163
15. 教師は生徒を学校の外でも指導している	0.382			0.149
23. 教師にはボランティア活動の経験が必要である		0.882		0.789
6. 教師には老人介護や障害者支援などの経験が必要である		0.774		0.620
17. 教師には子育ての経験が必要である		0.357		0.192
19. 教師には幅広い知識が必要である		0.267		0.150
8. 教師には適性が必要である		0.252		0.137
2. 教師は大変な職業である			0.704	0.531
9. 教師は忙しい職業である			0.697	0.540
11. 教師は苦勞が多い職業である			0.624	0.425
14. 教師の仕事には自由がある			-0.304	0.113
24. 教師は経済的に恵まれている				0.077
4. 教師は安定している職業である				0.063
13. 教師も人間だから、間違っただ行動をすることも仕方ない				0.052
18. 教師は努力次第で誰でもなれる				0.034
因子寄与	3.711	1.891	1.839	

2年生の平均値と比率に有意差があり、またそのすべてにおいて4年生の方が2年生よりも肯定的である。これは、4年生の教育実習などの体験が反映されたものと考えられる。

(3)『教職の現実性』因子を構成している項目には、特に肯定率の高い項目が多い。

【付記】本研究は、平成13年度城西大学学長所管研究奨励金の交付を受けて実施された研究の一部である。